

PREMIUM WATER HOLDINGS

2025年3月期通期 決算説明補足資料

株式会社プレミアムウォーターホールディングス
東証スタンダード：2588

2025年5月13日（火）





PREMIUM WATER
HOLDINGS

目次

- 当社が目指すもの・競争優位性・今後の展開
- 2025年3月期 通期業績
- Appendix
 - (1) 会社概要・経営理念・事業内容
 - (2) 2025年3月期トピックスまとめ
 - (3) SDGsへの取組み



PREMIUM WATER
HOLDINGS

当社が目指すもの

競争優位性

今後の展開



ウォーターサーバー需要の高まり



社会的背景
(外的要因)



水資源を未来へつなぎ、
日本の天然水の価値を高める

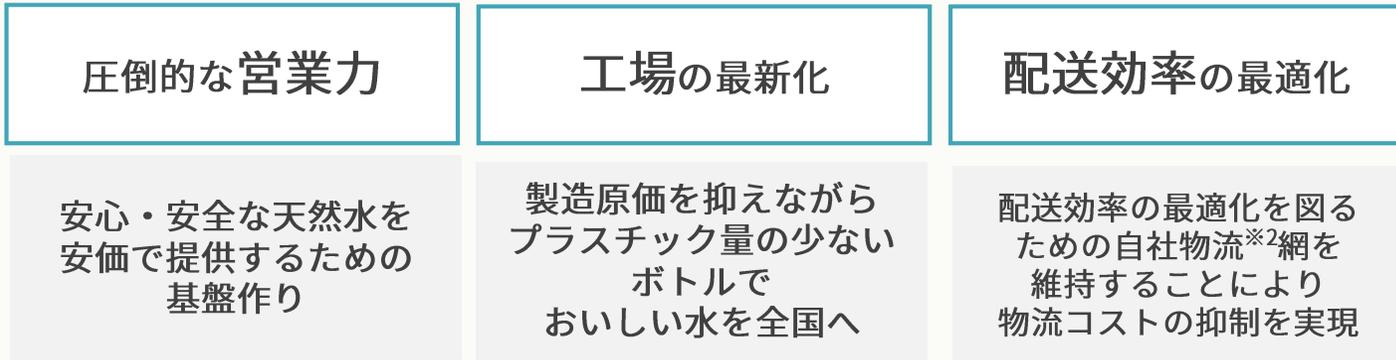
PWHD (プレミアムウォーターホールディングス) は

宅配水
業界シェア**No.1**※1

宅配水業界
最多の**8水源**

PWHD誕生以来
ユーザー数**連続更新**

安心・安全に注力した
浄水型の展開



※1 2025年3月末時点の当社顧客数 (173万件) ÷ 日本宅配水&サーバー協会 (JDSA) の統計数字に基づく 宅配水市場2025年3月末時点の予想顧客数 (524万件)

※2 当社の配送管理システムに参加している配送パートナー

天然水という差別化が難しい商品で、No.1の市場シェア。競争優位を構築・維持する3つのポイント。

1 業界No.1の顧客獲得力

圧倒的な営業力がある直販のノウハウを代販へ伝えることで、さらに強固な販売網を構築。



2 業界No.1の8水源（うち自社工場3ヶ所）

月間約500万本（約250万顧客相当）の生産能力を誇り、岐阜北方工場の竣工により、生産能力・生産効率が向上。

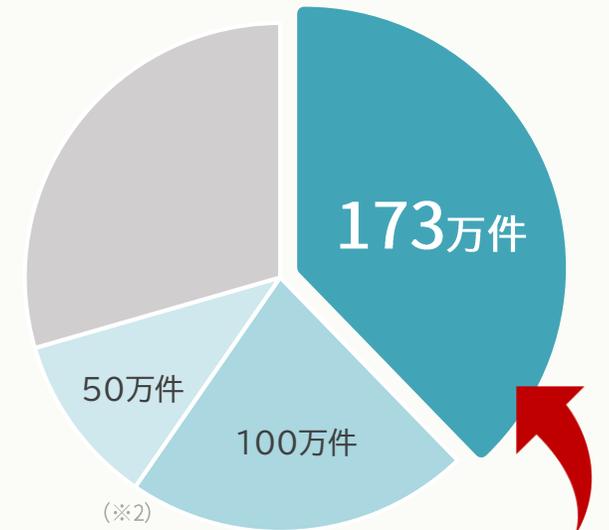


3 自社物流網の構築で効率的な配送

大手物流会社に左右されない自社物流網を構築したことにより、自社物流比率が51.3%まで上昇。大幅なコスト削減を実現。



ウォーターサーバー市場
顧客数 No.1
業界シェア 32.0% ^(※1)



■ プレミアムウォーターホールディングス
■ A社
■ B社
■ その他

※1 JDSA2024年度宅配水業界統計より算出

※2 日本流通産業新聞2025年1月9日号より当社作成



業界シェアNo.1の顧客基盤の拡大に注力する。



■ 保有顧客数（件）



水関連事業		
天然水	浄水型	その他

- 顧客基盤拡大3つの施策
- ① 直販の生産性の強化
 - ② メーカー特化型戦略による顧客満足度の向上
 - ③ M&A・出資・業務提携による営業力の向上

営業力強化への投資に加え、効率的な製造・配送体制の構築に注力していく。



※2025年3月末時点



PREMIUM WATER
HOLDINGS

2025年3月期 通期業績

天然水事業の順調な顧客獲得により、営業利益は前期比**121.7%**の成長を達成。
グループ体制の見直しや、継続的なコスト効率化により営業利益率も**改善傾向**。

●2025年3月期 通期業績

売上収益	76,895 百万円	前期比 95.4%	通期業績予想(修正後)に対する実績 99.9%
営業利益	11,482 百万円	前期比 121.7%	通期業績予想(修正後)に対する実績 104.4%
親会社の所有者に 帰属する当期利益	5,631 百万円	前期比 97.5%	通期業績予想(修正後)に対する実績 102.4%
EBITDA	23,907 百万円	前期比 118.2%	



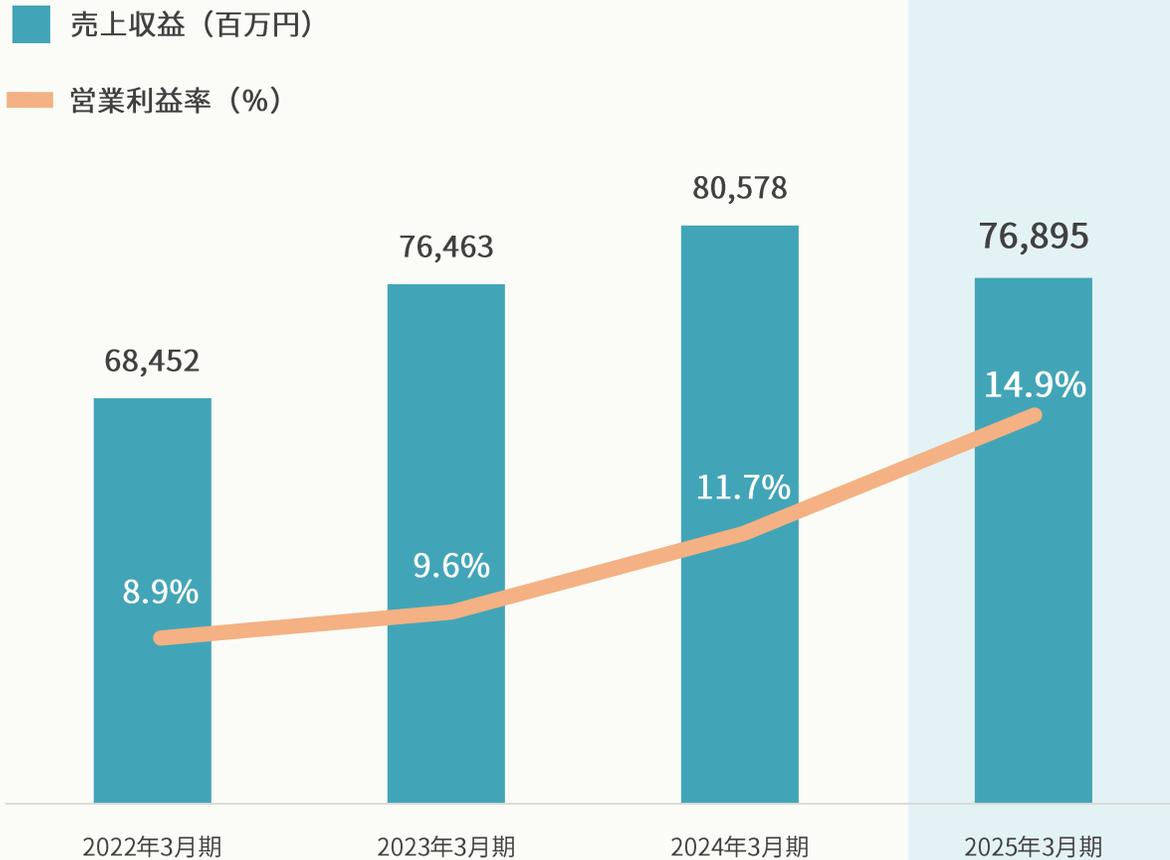
各種コスト効率化により営業利益は前期比**121.7%**を達成。

(百万円)

	2024年3月期 通期	2025年3月期 通期	前期比
売上収益	80,578	76,895	95.4%
売上総利益	66,868	65,296	97.6%
営業利益	9,436	11,482	121.7%
親会社の所有者に帰属する 当期利益	5,777	5,631	97.5%
E B I T D A (営業利益 + 減価償却費)	20,230	23,907	118.2%



2024年3月期と比較して、売上収益は前期に売却したモバイル事業分の減少はあるが、ウォーターサーバー事業については堅調に推移。



モバイル事業売上

2024年3月期に行ったエフェルシープレミアム(株)の売却に伴い、年間約44億円※の売上収益が減少。

※2023年3月期モバイル事業売上実績

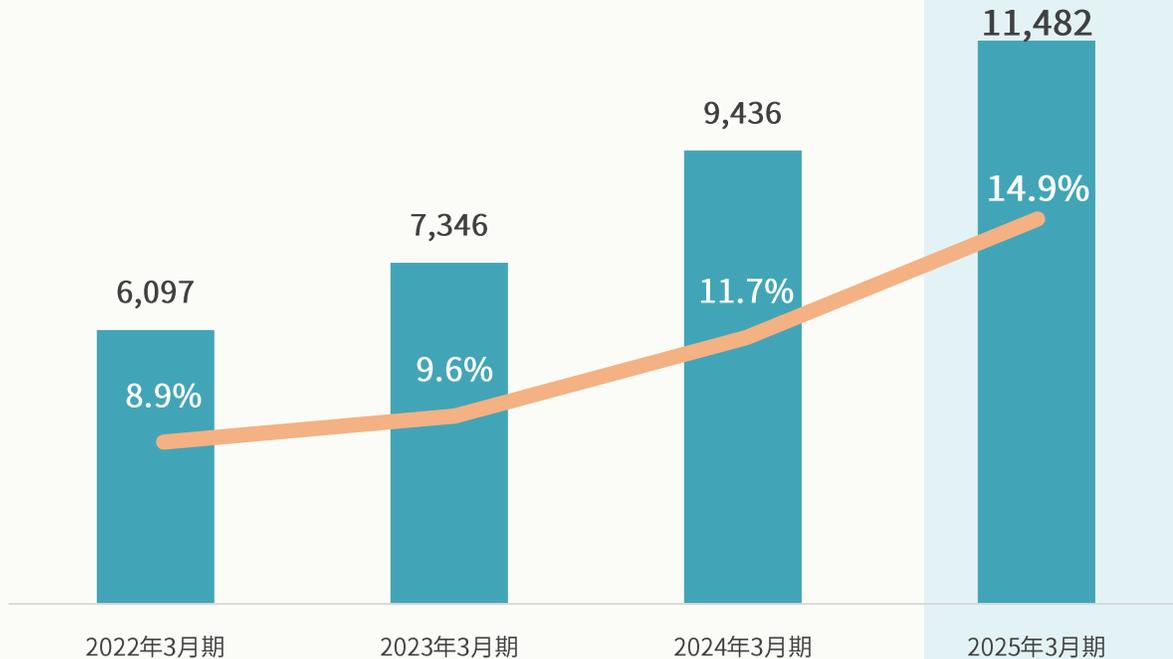
浄水型比率

全体保有顧客に対する割合は、約13%。月額費用は天然水の通常契約と比較して、約7割程度。



営業利益は、ユーザーの積み上げ・岐阜北方工場の本格稼働・自社物流網の構築による製造、物流コストの削減により順調に推移。営業利益率は前年から**3.2ポイント上昇**。

■ 営業利益 (百万円)
■ 営業利益率 (%)



天然水の出荷数増加

台風や豪雨、巨大地震をはじめとする災害への対策として天然水をローリングストックする方が増加し、結果的に天然水の出荷が増加。
自社工場水出荷量前期比約128%

北方工場本格稼働 & 自社物流網

2024年4月に本格稼働した岐阜北方工場では、稼働率を向上させ製造コストを前期比約10%削減。
自社物流網も51.3%と効率的な水準を維持し、物流コストの上昇抑制に成功。

顧客獲得コスト改善

営業組織の体制を見直し、生産性を上げたことにより、一件あたりの顧客獲得コストが改善し、営業利益の増加に寄与。



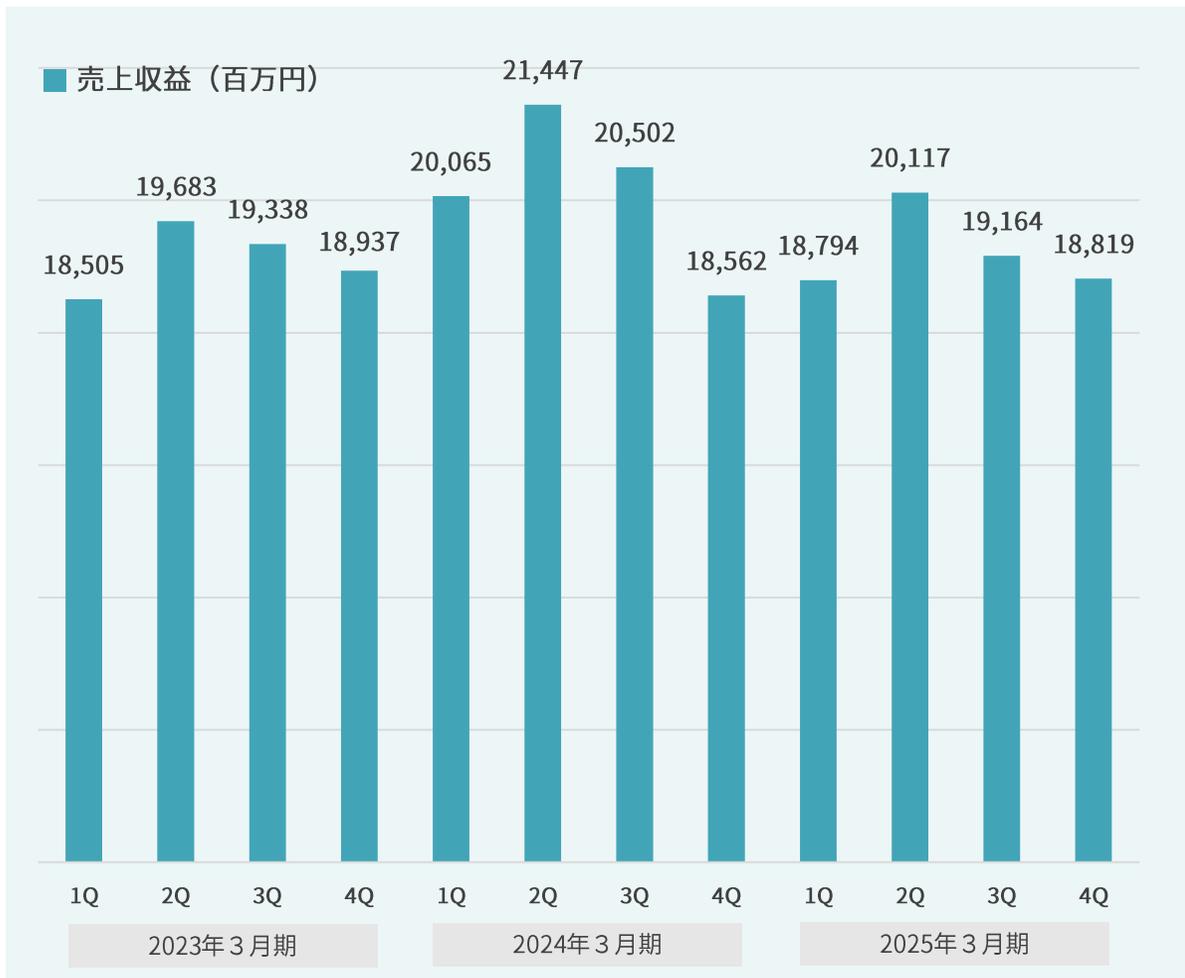
営業利益は前年同期比**113.2%**を達成。

(百万円)

	2024年3月期 第4四半期 会計期間	2025年3月期 第4四半期 会計期間	前年同期比
売上収益	18,562	18,819	101.4%
売上総利益	15,586	15,672	100.6%
営業利益	2,187	2,475	113.2%
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	2,016	733	36.3%
E B I T D A (営業利益 + 減価償却費)	5,082	5,742	113.0%

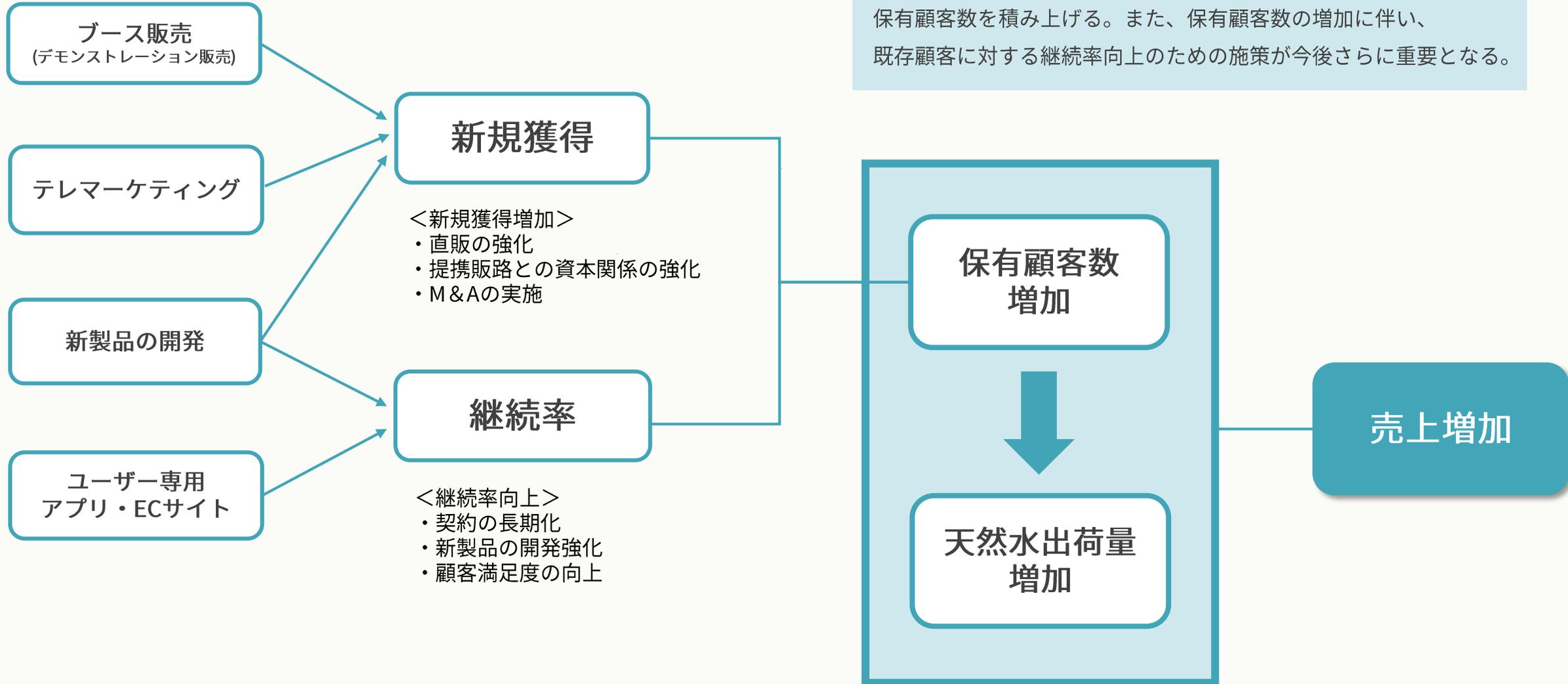


売上の拡大やコスト効率化により利益成長が進み、営業利益率は**13.2%**と安定して推移。



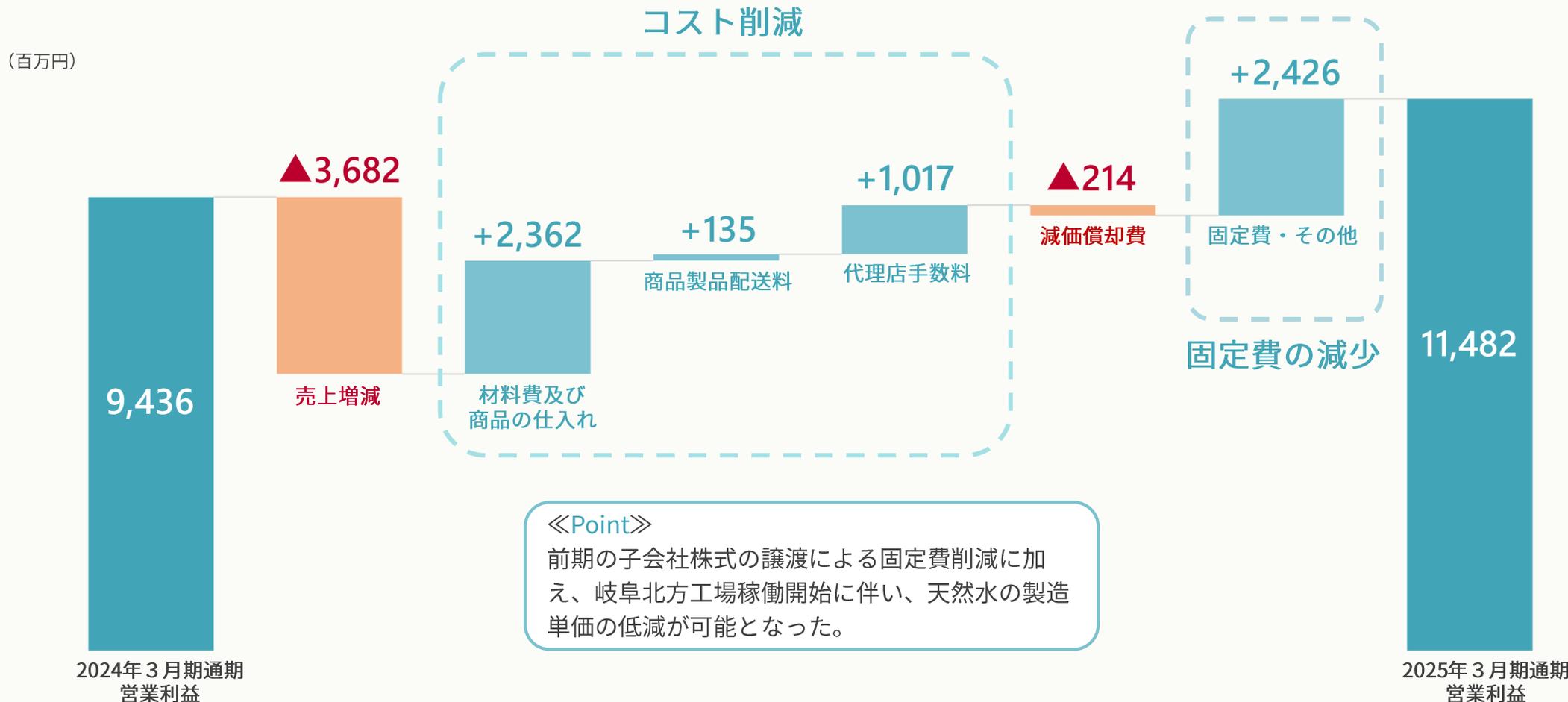
※1 毎期4Qは取次店等に対する手数料の支払いにより、1~3Qと比べると営業利益・営業利益率ともに減少

※2 下記の特種要因を除いた場合の数値
営業子会社の株式譲渡による利益：797百万円





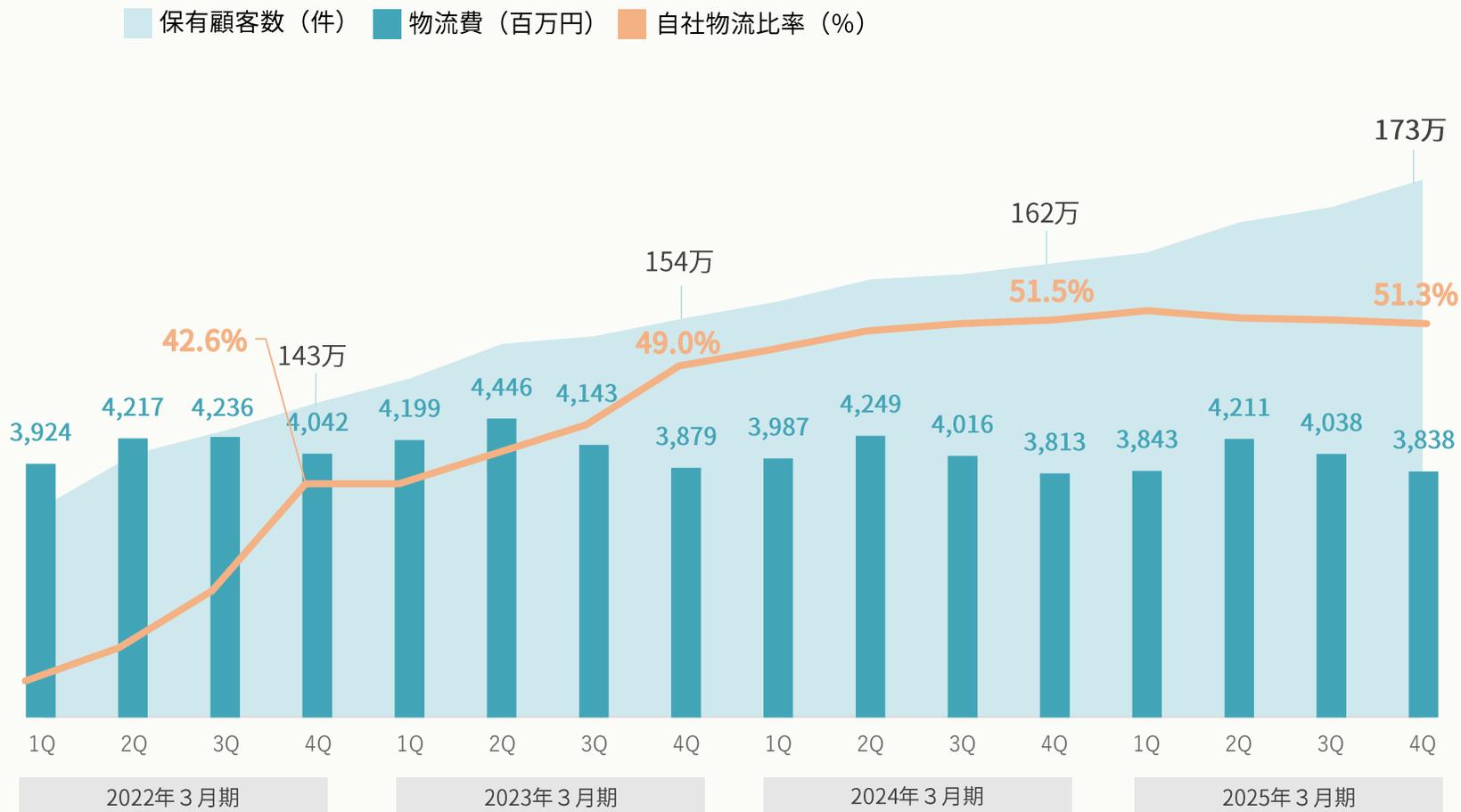
顧客獲得コストの効率化、岐阜北方工場本格稼働開始に伴う製造単価の低減、物流コストの上昇抑制等の実現により、営業利益は前期と比べて大幅に増加。





保有顧客数の増加に伴い物流量は増加するも、物流コストの上昇抑制を実現。

自社物流[※]比率の最適な水準を維持。



自社物流[※]比率

2019年3月期 18.7%

2025年3月期 51.3%

※当社の配送管理システムに参加している配送パートナー

関連会社との取引に係る未実現利益消去等の影響により、持分法による投資損益はマイナス。

関連会社独自のストックビジネス拡大に伴う先行投資費用の増加により、持分法による投資の減損損失を計上。

(百万円)

	2024年3月期 通期	2025年3月期 通期	増減	前期比
営業利益	9,436	11,482	2,046	121.7%
金融収益+金融費用	▲871	▲914	▲43	—
持分法による投資損益	▲536	▲846	▲309	—
持分法による 投資の減損損失	—	▲635	▲635	—
税引前当期利益	8,028	9,086	1,058	113.2%
法人所得税費用	▲2,250	▲3,456	▲1,205	—
非支配持分	▲0	1	1	—
親会社の所有者に帰属する 当期利益	5,777	5,631	▲146	97.5%



新規顧客獲得に伴うウォーターサーバー調達のため、リース債務の計上による有利子負債が増加。

(百万円)

	2024年3月期	2025年3月期	増減
流動資産	44,801	47,324	2,523
現金及び現金同等物	30,561	31,900	1,338
営業債権及びその他の債権	11,064	12,271	1,206
棚卸資産	1,108	917	▲191
その他	2,065	2,235	169
非流動資産	54,605	64,751	10,146
有形固定資産	29,503	32,797	3,294
無形資産	2,637	3,223	586
持分法で会計処理されている投資	4,180	4,218	37
その他の金融資産	4,924	10,103	5,178
契約コスト	11,480	12,847	1,367
その他	1,879	1,561	▲318
総資産	99,406	112,076	12,670

(百万円)

	2024年3月期	2025年3月期	増減
負債	76,636	87,003	10,366
流動負債	28,256	43,076	14,819
営業債務及びその他の債務	14,545	15,459	913
有利子負債	11,458	24,481	13,023
未払法人所得税	1,438	2,447	1,009
その他	815	687	▲127
非流動負債	48,379	43,927	▲4,452
有利子負債	48,036	43,289	▲4,747
その他	343	637	294
資本	22,770	25,073	2,303
株主資本	22,753	25,057	2,304
その他	16	15	▲1
負債及び資本合計	99,406	112,076	12,670



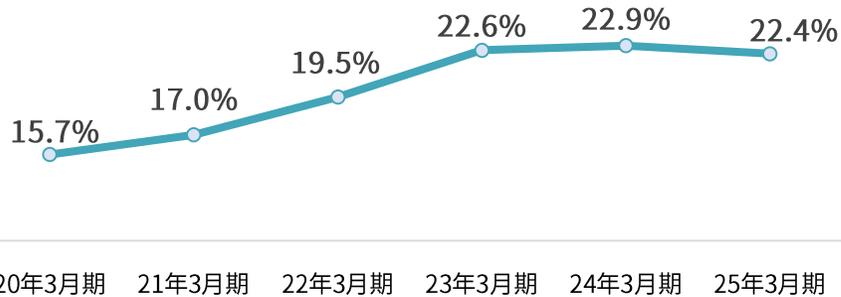
(百万円)

	2024年3月期 通期	2025年3月期 通期
営業活動によるキャッシュ・フロー	19,669	20,659
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲5,001	▲12,774
フリー・キャッシュ・フロー	14,668	7,885
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲9,882	▲6,541
現金及び現金同等物の期末残高	30,561	31,900

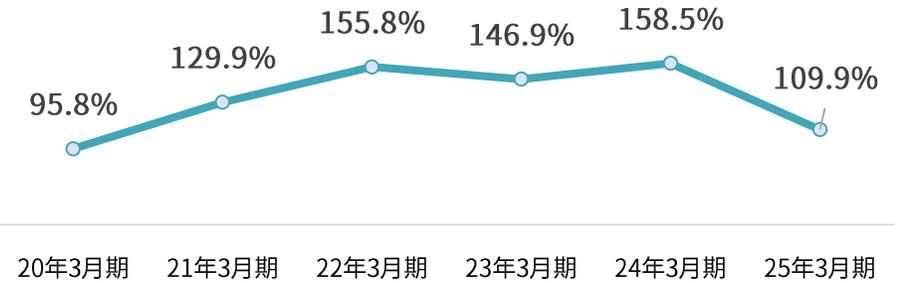


自己資本比率は引き続き、20%を超え推移。流動比率の低下は、1年以内償還予定の社債の増額が影響。

● 自己資本比率



● 流動比率^(※3)



● 基本的1株当たり当期利益 (EPS)

(円)



ROE 23.6%

ROA 5.0%

※1 2023年3月期において、当期利益は6,057百万円でしたが、特殊要因として繰延税金資産の計上分1,753百万円を含んでおりますので、その特殊要因を除いた当期利益は4,304百万円でした。

※2 2024年3月期において、当期利益は5,777百万円でしたが、特殊要因として子会社譲渡の売却益797百万円を含んでおりますので、その特殊要因を除いた当期利益は4,980百万円でした。

※3 流動比率=流動資産÷流動負債



売上収益は、新規契約件数の増加に伴う保有顧客数の増加等により、引き続き堅調に推移し増収見込み。営業利益についても、自社製造比率の向上や自社物流網の構築による製造・物流コストの削減効果により、増益が継続する見通し。

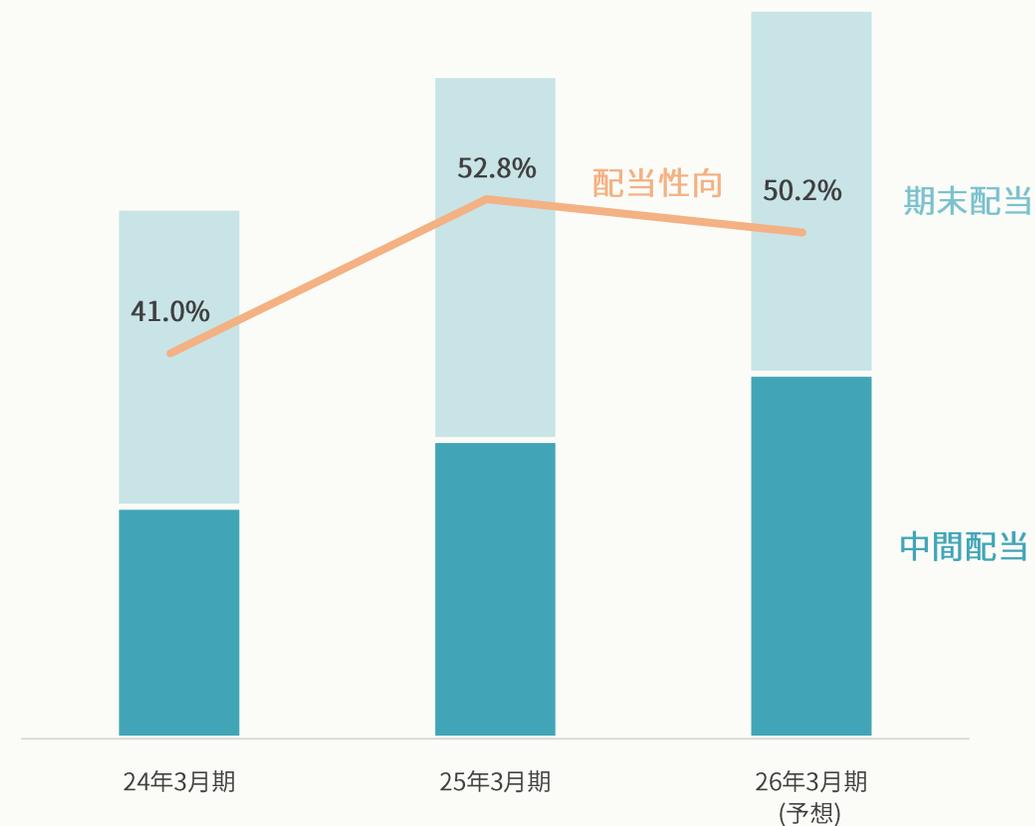
(百万円)

	2025年3月期	2026年3月期		
	実績	予想	増減額	増減率
売上収益	76,895	80,000	3,104	4.0%
営業利益	11,482	12,000	517	4.5%
親会社の所有者に帰属する 当期利益	5,631	6,500	868	15.4%
1株当たり当期利益 (円)	189.40	218.94	—	—

2025年3月期の期末配当は、予想50円から5円増額の**55円**で決定。今期も配当に関しては、内部留保や成長投資とのバランスを考慮しながら安定的な**増配**を継続する方針。

(円)

	2024年3月期	2025年3月期	2026年3月期 (予想)
中間配当 (基準日：9月末日)	35.00	45.00	55.00
期末配当 (基準日：3月末日)	45.00	55.00	55.00
合計	80.00	100.00	110.00





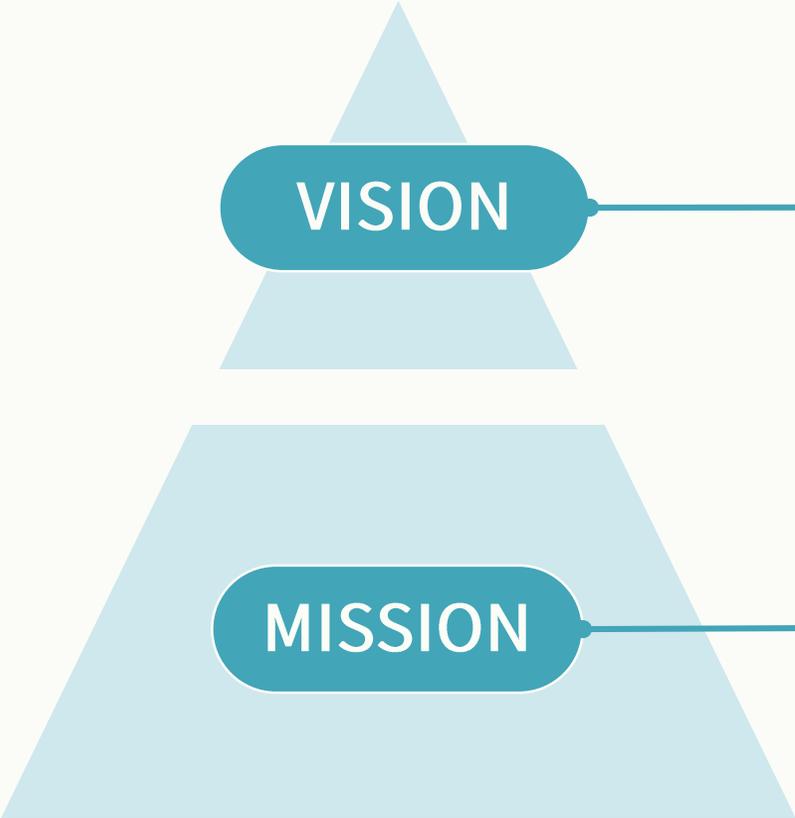
PREMIUM WATER
HOLDINGS

Appendix

(1) 会社概要・経営理念・事業内容



会社名	株式会社プレミアムウォーターホールディングス
設立	2006年10月13日
所在地	<東京本社> 東京都渋谷区神宮前1-23-26 神宮前123ビル5階 <本店> 山梨県富士吉田市上吉田4597-1
代表者	代表取締役社長 金本 彰彦
従業員数	882名（役員、臨時従業員含まない） ※2025年3月31日現在
資本金	4,727百万円 ※2025年3月31日現在
事業内容	自社ブランド「PREMIUM WATER」を中心とするミネラルウォーターの ウォーターサーバー事業を行う子会社等の経営管理及びそれに付帯又は関連する業務
主要なグループ会社	プレミアムウォーター株式会社 プレミアムウォータープロダクツ株式会社 株式会社LUXURY 株式会社PWリソース 株式会社ライフセレクト SINGAPORE FLC PTE.LTD



VISION

自社の活動を通じて人々の生活を豊かに
そして**世界で一番愛される会社へ**

MISSION

日本の天然水という唯一無二の価値を日本人に
そして世界に伝える事で社会的意義を果たし、地方創生を実現する

自社ブランド「PREMIUM WATER」を主軸とした、天然水及び浄水型ウォーターサーバー事業を展開し、顧客の増加により確実に収益増加が見込める、安定性の高いビジネスモデル。

天然水(宅配水)

日本の貴重な天然水（ナチュラルミネラルウォーター）を定期配送にてお客様にお届け



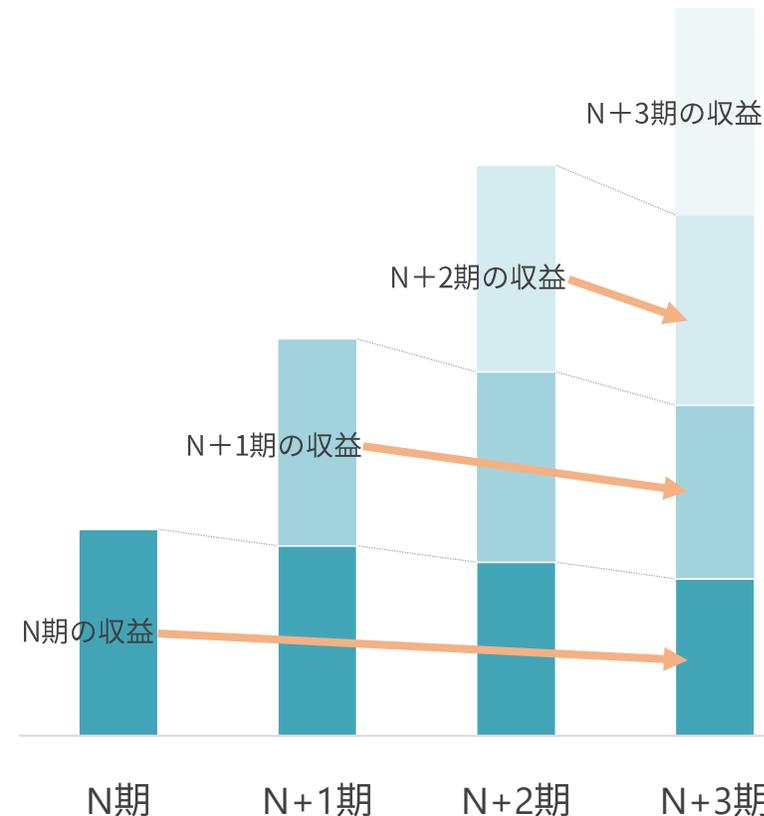
+

浄水型

ご家庭で水道水を手軽に浄化できるウォーターサーバーを安価な定額料金でご提供

顧客1件あたりの獲得コストが一定水準であれば収益が積み上がる

ストック型ビジネスモデル





PREMIUM WATER
HOLDINGS

Appendix

(2) 2025年3月期トピックスまとめ



M&Aの実施

2024年6月、ビックカメラグループより「宅配水事業」と「浄水型ウォーターサーバー事業」を継承しました。



新ブランドの発表

株式会社カブ & ピースと共同で、新ウォーターサーバーブランド「KABU & ウォーター」を発表しました。利用料金に応じて同社の未公開株式を受け取ることができるサービスで、利用者のニーズに合わせてウォーターサーバーを選択することができます。



新商品のリリース

2024年9月には「AURA Water Server」、2025年1月には浄水型サーバー「Slim-R II」を新導入しました。





岐阜北方工場（第2期工事）が竣工

2024年4月に岐阜北方工場（第2期工事）が竣工しました。生産能力の増強、製造単価の低減化に大きく寄与しています。

生産能力：**240**万本以上/月

※第2期工事前比較：**190**万本増



共同配送の実施

コクヨサプライロジスティクス株式会社との共同配送を開始いたしました。物流費高騰という社会情勢の中、提携先企業と当社で共同配送を実施することで、物流の効率化とコスト削減を目指します。また、「2024年問題」をはじめとする社会課題の解決に貢献するため、環境負荷の低減化を図ってまいります。

KOKUYO コクヨサプライロジスティクス株式会社



PREMIUM WATER

High Quality Water Delivery Service





PREMIUM WATER
HOLDINGS

Appendix

(3) SDGsへの取組み



こども食堂へのお米寄付



貧困や孤食という問題を抱える子どもたちの食が少しでも豊かになることを目的に、貧困家庭や孤食の子どもに食事を提供する「子ども食堂」に自社富士吉田で収穫したお米を寄贈しました。

小学校での出張授業



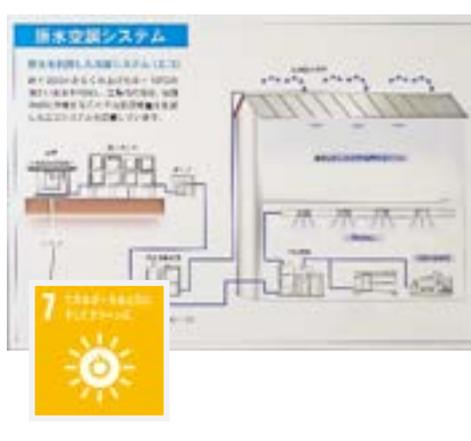
小学校から行われるキャリア教育の一環として出張授業を実施しています。天然水を取り扱う企業だからこそ伝えられる「お水や自然の大切さ」と「日本の天然水という価値ある資源を未来に残していくために、自分たちにできることは何か」を子どもたちに自由な発想で考えていただきます。

災害時の支援・復興サポート



山梨県富士吉田市、兵庫県朝来市と「災害時における飲料水の供給に関する協定」を締結しており、災害発生時に被災者に飲料水の提供が必要となった場合、無償供給およびサーバーの無償貸与を行います。他にも、西日本豪雨による被災地支援品の寄贈、熊本地震における義援金寄付、熊本復興支援イベントの開催等を行い、「令和6年能登半島地震」においても、被災地支援を行っています。

地下水の利用



富士吉田工場では、地下水200mからくみ上げた9度～10度の冷たい原水を利用し、工場内の冷房・設備冷却に活用することで電気使用料を削減したエコシステムを設置しています。

安心安全のナチュラルミネラルウォーター



同社グループの製品（ナチュラルミネラルウォーター）は、一般の公的基準よりも厳しい自社基準を設け、1日に10数回に及ぶ自主的な検査（水の微生物検査、理化学検査、官能検査）と定期的な放射線物質の検査を実施しています。また、赤ちゃんのからだにもやさしい「軟水」を提供しています。

PETボトルの軽量化



PETボトルの構造を変更し、2023年時点で20%軽量化（プラスチック使用量削減）を達成し、さらに2024年には3%の軽量化に成功しました。従来より23%軽量化した新たなペットボトルに順次入れ替え、2024年度中に全水源の約80%切り替えを目指しています。

公平な人事制度・ジェンダー平等への取り組み



人事考課での公平性を確保するために、人事ポリシー・考課制度を再整備しています。また、産前産後休業や育児休業・育児休業給付、育休中の社会保険料免除のほか、制度の周知や情報提供を行っています。

森林整備活動（西桂地区）



地域の水資源育成に向け、水源涵養機能の高い森が、良い水資源を生み、豊かな食生活を生むという考えから、西桂工場のある山梨県の西桂地区において健全な森を作る間伐等の整備を行っています。



サステナビリティレポート公開のお知らせ

当社グループのサステナビリティに関する取り組みや活動を、より多くのステークホルダーの皆様にご理解いただくことを目的に、当社ウェブサイトにて「サステナビリティレポート2024」を公開中です。

ESG（環境・社会・ガバナンス）の項目別に構成し、これまで実施した取り組みと持続可能な社会に貢献するための具体的なアクションを中心にご紹介しております。本レポートでは「CO2排出量のScope3算定結果」や「お客様への防災啓蒙活動」、「ダイバーシティ推進に向けた取り組み」等、最新の情報を追加しております。是非、ご覧ください。

「サステナビリティレポート2024」
<https://premiumwater-hd.co.jp/sdgs/img/report/ssr2024.pdf>

当社ウェブサイトのサステナビリティページ
<https://premiumwater-hd.co.jp/sdgs/>





1. 掲載された情報についてご注意いただきたい点

当資料を通じ、財務情報、経営指標等の情報の開示を行います。当社は、当資料を通じて情報開示を行うにあたり細心の注意を払っておりますが、当資料に掲載した情報について内容の正確性等を保証いたしません。当資料による情報開示は、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終的な決定は、ご自身の判断でお願い致します。当社は、当資料に掲載された情報を利用したことにより生じたいかなる損害についても、一切責任を負いません。

2. 将来の見通しに関する事項について

当資料に掲載されている情報には、業績予測等の将来の見通しに関する記述が含まれていますが、これらはリスクや不確実性を内包するものです。業績予測等の将来の見通しに関する記述は、その実現性を保証するものではなく、当社を取り巻く経営環境や市場動向の変化等により、実現しない可能性があることにご注意ください。

3. 当資料の運用について

当資料は予告なく配布の中止や内容の変更を行うことがあります。当社は、当資料を利用できなかったことにより生じたいかなる損害についても、一切責任を負いません。

＜お問い合わせ先＞

株式会社プレミアムウォーターホールディングス IR担当

メールアドレス：ir@premiumwater-hd.co.jp



PREMIUM WATER
HOLDINGS